

研修旅行

宇都宮美術館「パウル・クレー展」と
那珂川町馬頭広重美術館を訪ねる旅

2015年8月29日(土)

福島県立美術館から早川館長・伊藤学芸課長・坂本学芸員様にご同行いただき、41名で出かけました。

「宇都宮美術館」は、豊かな自然に囲まれた「うつのみや文化の森」という所にあり、1997年に開館した素敵な美術館です。学芸員様に美術館の特色や「クレー展」についての解説をお聞きした後、作品を鑑賞しました。クレーは「謎めいた」と評されるように、ユーモラスな中に社会風刺や問題提起があり、作品の題から様々な想像がかきたてられ、おもしろいけれどそれだけではない、何かありそうな…と、見入ってしまう作品の数々でした。昼食は美術館内のレストラン「ジョウ・デ・サンス」で、「企画展スペシャルランチ・パウルクレーの故郷をたずねて」をいただきました。クレーの故郷・スイスベルン地方のクレーも食べたであろう野菜やチーズ・肉を使っているおいしいランチでした。「もっと観ていたい、まだ観ていない」との声から予定を1時間延長し、昼食後も「クレー展」を鑑賞しました。それから那珂川町馬頭広重美術館へ。日本を代表する建築家・隈研吾氏（話題の新国立競技場の設計者）の設計による竹や和紙を多用した平屋建て・切り妻屋根杉の格子に包まれた趣のある美術館で、栃木県出身の肥料商・青木藤作氏のコレクションの寄贈により2000年に開館とのこと、館長さんの解説の後、広重の肉筆画や版画等を鑑賞しました。往復のバスの中は、早川館長・伊藤課長・坂本学芸員様のお話を伺ったり、おしゃべりをしたり、友の会らしい楽しい旅行でした。

(友の会研修旅行担当 辺見美江子)



パリ美術研修旅行

2015年11月10日(火)～16日(月)

友の会初めての海外美術館研修旅行「パリの美術館7日間の旅」

が2015年11月10日～16日の日程で行われました。早川美術館長さんにご同行いただき19名が参加しました。

多くの画家ゆかりのモンマルトルの丘の散策、ルーヴル美術館、オルセー美術館、国立近代美術館のパリの3大美術館での名画鑑賞、さらには自由時間を使って参加者それぞれのお目当ての美術館巡りなど、「美術館のような街」パリで多くの本物の美術の魅力にふれることができました。

特筆すべきことは、オルセー美術館のマネの「草上の昼食」の前で早川館長さんの特別講座をしていただいたことです。マネの制作背景やその後の印象派の画家たちに大きな影響を与えたことなど本物の名画の前でお話しをお伺いできたのは有意義でした。

旅の終わりにテロ事件が起きるなど思わぬハプニングもありましたが、全員無事予定どおり旅を終えました。

(海外美術館研修旅行担当 貝沼幹夫)



美術実技
講座

カタチを変えて楽しめる絵を作る

講師：久慈伸一(当館専門学芸員)

2015年11月7日(土)

最初、形を変えることのできる絵というのが、具体的にイメージできなくてとまどいました。実際作り始めると、ここを動かす、こちらも動かしたいと、どんどんアイデアが形になり、新鮮な体験ができました。(美術実技担当 佐藤みどり)

映画鑑賞
講座

映画上映企画
活動報告



4月。待望の県立美術館リニューアルオープン。その最初の展示会がなんと「フェルメールとレンブラント」。希少価値と声望ではダ・ヴィンチ級のフェルメール絵画に合わせた映画上映会の相談いただき、2003年製作の劇映画「真珠の耳飾りの少女」を4月9日一日限定で再上映しました。光の絵画と賞賛される芸術創造の秘密に、若い女中とフェルメールのセンシティブな交流のドラマを通じて迫ろうとするこの映画では「真珠の耳飾りの少女」だけでなく、今回展示される「水差しを持つ女」が何シーンも登場し、展示会を側面で盛り上げられたのではないかと考えてます。期せずしてタイムリーな選択になりました。昼夜2回の上映で約300名の方が鑑賞。13時の回は上映後、荒木康子学芸員に映画の場面を引用しながら、フェルメールの家族関係やオランダ絵画の時代背景についての解説もあったので、入りきれないほどお客様が詰めかけてくださいました。このあとも今回のような展示会企画にちなんで作家の映画上映会を企画していきたいと思っています。6月にエドワード・ゴッリー展が控えています。ゴッリーがとても映画の好きな人だったらしいので、彼のこだわりの映画上映会を目下のところ、学芸員の方と協議中です。

このあと7月に、建築物にまつわる映画特集(「もしも建物が話せたら」[創造と神秘的サグラダ・ファミリア]の二作品上映)と「バンクシー・ダズ・ニューヨーク」というストリート・アートをめぐる狂騒を撮ったドキュメンタリー映画が控えております。今後とも、アートな映画上映企画にご注目ください。

(フォーラム福島支配人 阿部泰宏)

ミュージアム・
コンサート

夏の夕べのコンサート「シターの典雅な響き」

2015年8月8日(土)

休館中の美術館でのミュージアムコンサートの開催が出来ない為、文化センターで展示の名作版画展の会場で開催しました。

フランスのブルゴーニュ地方の教会で演奏されるシターという楽器をマスターした演奏奏者の中川啓子さんを招いて、ルオーの名作版画集『ミセレーレ』の前でアベマリヤ、バッハの「主よ、人の望みのよるこびよ」他を演奏して頂きました。ミセレーレの悲しみの版画に相応しい演奏に聴衆者がうっとりする夜のコンサートでした。翌日、有志で演奏者を裏磐梯の散策にお誘いし、大阪とは違う福島自然を堪能してもらいました。

(友の会ミュージアム・コンサート担当 丹治孝子)



美術鑑賞
講座

フェルメールとレンブラント展

2016年3月26日(土)

坂本学芸員より17世紀オランダ美術の歴史と特徴についてお話をうかがいました。この時代のオランダでは、政治や宗教の影響により、様々なジャンルの絵画が発展したとともに、そうした絵画が一般市民に向けてつくられたそうです。フェルメールの《水差しを持つ女》とレンブラントの《ペローナ》はもちろんのこと、そのほかの作品の魅力についてもお話いただき、展示会を見るのが待ち遠しくなりました。